

## 組織目標評価報告書（平成21年度）

部局名：薬学部

組織目標		達成状況(成果)		
教 育	1)薬学科(6年制)の教育内容を薬学教育評価機構が求める評価基準に準じて評価し、自己評価書を作成する。	平成18～21年度の4年間における本学部薬学科(6年制)の教育内容を、薬学教育評価機構が求める評価基準に準じて評価し、140頁に及び自己評価書を作成した。同評価書を薬学教育評価機構に送付するとともに、薬学部ホームページにも掲載した。		
	2)薬学実務実習事前学習を実施すると共に、本学習内容の改善を講じる。	薬学科4年次学生を対象に薬学実務実習事前学習を本年度後期に実施した。現行で十分に独自の・先導的であり、本学習内容の改善を講じる必要はないと判断された。このことは、全国規模で行われた本年度の薬学共用試験(CBTおよびOSCE)に45名全員が合格したことから実証された。		
	3)創薬科学科の教育内容の充実をはかるとともに、卒業生の出口保証となる学力確認試験を実施する。	創薬科学科独自の授業科目として免疫医薬品学を開講し、教育内容の充実がなされた。また、卒業生の出口保証となる卒業試験を実施した。さらに、学内COE教育支援プロジェクト「創薬従事者養成のための教育体制「岡山大学モデル」の構築」により、創薬科学科学生を対象とした学外研修や講演会を開催した。		
	4)薬学部の教育環境の充実を図る。	平成21年度補正予算により薬学部本館の耐震・改修工事が部分的に進められ、講義室および調剤実習室の増設、チューリアルームおよび学生アメニティスペースの設置等、教育環境の充実がなされた。		
	5)薬学教育充実のためのより有効な手段として、個人評価法の改善を進める。	これまでの薬学部教員活動評価調査では研究の比重が高くなりがちであったが、研究領域の素点をこれまでの半分とし、また、指導学生の学会発表を研究領域だけでなく、教育領域の評価項目にも追加するなど教育領域の比重を高めた。このような教員活動評価法の改善により薬学教育の充実がなされた。		
	6)一般社会や高校等に対する広報活動や講演活動などを更に進めて、薬学領域の社会に対する貢献度を広く認知してもらうと共に、入学希望者の増加を図る。	薬学部公開講演会、岡山大学創立60周年記念薬学部講演会および薬学部公開を実施し、約170名の一般社会人や高校生が参加した。また、学部紹介パンフレットおよびビデオの作成、近隣各県高校への出前講義や高校生の学部訪問を積極的にを行い、本学部受験志願者の獲得を図った。		
	7)FD活動をより活発に展開し、更なる教員の意識向上に努める。	7回のFD委員会を開催し、学生による授業評価アンケート、授業自己評価アンケート、同僚による授業評価などを推進した。また、4回のFDフォーラムを開催し、教員の薬学教育に対する意識向上に努めるとともに、授業評価に関する学生との討論を行った。		
達成度:		4		
研 究	1)科研費獲得や共同研究実施を推進する取り組みを行う。	科研費の採択は昨年比、件数で1.15倍、金額で1.41倍、共同研究費、受託研究、奨学寄付金の件数は昨年比、それぞれ0.7倍、1.0倍、1.42倍であり、取組みの成果が認められた。		
	2)国際交流研究やトランスレーショナルリサーチの推進を図る。これらの研究成果を基盤に外部資金、特に大型予算を伴うプロジェクトの採択にむけ努力する。	学内COE研究支援プロジェクト「医薬学融合型戦略による難治性感染症治療薬開発研究基盤形成」により、マラリア等治療薬の国際共同研究並びに開発を推進するとともに、平成22年1月に岡山中第3回日中韓国際シンポジウムを開催し、岡山大学と中国の上海中医药大学・中薬研究所、および韓国の圓光大専科・人獣共通感染症研究センターの間で3カ国の大学間協定の締結に向けて協議した。さらに、医薬学融合型の本プロジェクトを基盤に「難治性感染症を協定とした創薬研究教育推進事業」の事業名で概算要求特別経費プロジェクトとして文部科学省に申請し、平成22年度から5年間の計画で採択された。		
	3)インドにおける新興・再興感染症拠点を基盤として、感染症研究施設をなお一層充実させ、あわせて大学院教育・研究の進展を図る。	岡山大学新興・再興感染症研究拠点プロジェクトにより、本年度も引き続き岡山大学インド感染症共同研究センターを中心としてインドコルカタ市周辺におけるコロナの発症状況を詳細に調査し、大きな成果をあげた。また、インドおよび本学の大学院生の研究指導や人材育成にも大いに寄与した。本年度が最終年度であり、文部科学省の評価委員会や感染症研究推進委員会より、費用対効果が極めて高い実力ある拠点である、今後WHOへも大きなインパクトを与える可能性がある等の高い評価を得ることができた。平成22年度からは文部科学省の「感染症研究国際ネットワーク推進プログラム」が5年間の計画で採択され、本学のインド拠拠点も引き続き参画することとなっている。		
	4)化学物質の安全管理や研究室の安全性を高める取り組みを行う。	本学部教職員が毎月1回、2人1組で学部内全研究室を巡回し、毒劇物の保管・管理状況を調査・点検した。本年度後期から、薬学部本館の耐震・改修工事のため、多くの研究室は様々な他部局等へ移転しているが、それぞれの移転先へも出向いて調査・点検を行った。移転先ではガス、火気の使用、研究室の施設等安全性の確保に努めた。		
	5)2010年3月に本学部を主幹として開催される日本薬学会130年会を盛会に導くよう、開催準備をすすめる。	本学薬学部教員が就実大学薬学部教員とともに日本薬学会130年会の組織委員会を形成して準備を進め、3月27～30日に岡山市で開催し、約1万人の参加者を得て盛会裏に終えることができた。		
達成度:		4		
社 会 貢 献	1)一般人を対象に講演会を開催し、薬学に関する社会の認識を高める。	薬学部公開講演会および岡山大学創立60周年記念薬学部講演会を実施し、約170名の一般社会人や高校生の参加が得られ、薬学に対する社会の認識を高めることができた。また、本学部が主幹校として岡山市で開催した日本薬学会130年会では「食の安全と医薬品の安全」とのテーマで市民講演会を実施し、約180人の参加者があり、食と薬に対する市民の理解を深めることができた。		
	2)高校生や一般人に薬用植物園を公開し、社会の薬用植物への関心や理解を高める。	平成21年5月の薬学部公開に合わせて薬用植物園も一般公開し、47名の参加者があり、社会の薬用植物への関心や理解を高めることができた。		
	3)高校への出前講義を実践し、高校生の大学教育への理解や関心を高める。	近隣各県高校への出前講義や高校生の学部訪問を積極的にを行い、また、学部紹介パンフレットおよびビデオを作成し、高校生の大学教育への理解や関心を高めた。さらに、岡山市で開催された日本薬学会130年会では、本学部の3名の教員がオーガナイザーとなり高校生によるシンポジウムを実施し、中四国各県から14題もの研究発表が行われた。		
	4)薬剤師会等と連携し、薬剤師の生涯学習に貢献する。	平成21年度の学長裁量経費教育研究プロジェクト「地域医療に貢献できる薬剤師卒業教育の基盤形成」により、岡山県薬剤師会、岡山県病院薬剤師会と連携し、平成22年2月に薬剤師卒業教育セミナーを実施した。また、セミナーの内容を録画し、インターネットで配信する体制を構築し、これらによって薬剤師の生涯学習に貢献した。		
達成度:		4		
客 観 的 指 標	事項	前年	今年の目標	達成状況
	学部入試倍率	4.24	4.3	3.76
	大学院充足率			
	科研費申請率			
	科研費採択率			
	共同研究件数			
	受託研究件数			
	留年・休学・退学者数	5名・2名・0名	(今年の状況)	7名・1名・1名
就職率	100%	100%	0%	

【自己評価総括記述欄】※目標及び指標の達成状況について総括し、次年度に向けた改善点等を記載してください。

組織目標については当初の計画どおり、又はそれ以上に達成できた。特に薬学部の教育環境の充実に関して、補正予算で本館2/3の耐震・改修が進められ、平成22年度予算で残りの部分の工事と増築が認められたことは、6年制薬学科学科の教育のためには極めて不十分であった設備がようやく整うこととなり、教育効果の飛躍的な向上が期待される。また、研究領域で学内COE等をはじめとするこれまでの実績が認められ、概算要求として特別経費プロジェクト並びに感染症研究国際ネットワーク推進プログラムのインド拠点が採択されたことは、今後の薬学部における医薬創製へ向けた研究活動の大きな推進力となるものと期待される。一方、各指標については、このところ入試倍率が低下傾向にあり今年度も歯止めをかけることができなかった。この根拠には薬学部6年制の問題があると考えられ、改善は容易ではないと思われるが、薬学入試部会を中心に早急に対策を講じていきたい。より根本的には、学部全教員が一丸となって教育・研究に取組み、成果をあげるとともに、卒業生の就職先を開拓し、良好な就職率をあげ続けることが重要である。なお、今年度の就職率が0%となっているのは、6年制薬学科学科の学生は現在4年生であり、一方、4年制創薬科学科の卒業生全員が博士前期課程へ進学したためである。

【達成度】4:非常に優れている 3:良好である 2:概ね良好であるが改善の余地あり 1:不十分であり改善を要する

注)本様式は一般的な学部・研究科用であり、部局の特性に合わせて設定した領域・指標により修正してください。

[組織目録一覧へ](#)